

平成 30 年度 第 2 回学校協議会報告

日時：平成 31 年 2 月 2 日(土) 13:30～15:30

会場：東大谷高等学校 多目的室 1

1. 校長挨拶

2. 協議会委員自己紹介（敬称略）

委員：東 京子氏 有本昌剛氏 堀川 浩氏 中村俊一氏 合志由美子氏
（欠席）至 孝也氏 宮坂政宏氏

事務局：神代一徳（校長） 長尾文孝（教頭） 市居政彦（進路指導部長） 橋本壽志（指導部長）
竹花顯（校務部長） 東明美（教務部長） 出水謙一郎（入試対策部長） 志藤真裕（情報部長）

3. 議事

（1）現況説明

- ・進学コース……新 3 年生選抜クラスを編成，高大連携効果か内部進学者増加。
- ・国際コース……NZ 留学希望者増加。70 名中 1 年が 7 名，3 ヶ月が 22 名。（昨年 25 名）
- ・特進コース……進学実績向上をめざして方策を検討中。
- ・高大連携薬剤師育成プログラム 1 年生 41 名でスタート，現在 22 名で実施中。辞退の 19 名は学習意欲が増し特進をめざす者や新たな適性を見出した者など。
- ・平成 31 年度高校入試出願状況 入学者 300 名で安定してきた。泉南地区はスクールバスを 1 年後に廃止することの影響で減少している。
- ・平成 31 年度大学入試結果（12 月末段階）
- ・新たな校地を取得。来年度中にテニスコート整備を行い使用開始

（2）今後の取り組み

- ・進学コース……高大連携教員育成プログラム策定中で，2020 年度スタートをめざす。
- ・国際コース……交換留学を実施すべく交渉を進めていく
- ・特進コース……アウトソーシングを導入（2,3 年生で 3 コマ）し，進学実績向上をめざす。
- ・「主体的な学習」はまだ途上であり，次年度さらなる充実をめざす。
- ・次年度より男女混合名簿を利用する予定

（3）学校評価アンケートについて

- ・「授業が分かりやすい」の回答項目「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の両方を肯定的評価と捉えるとあいまいさが生じる。「そう思う」の比率を評価すべきで「どちらかといえば…」を「そう思う」に向上させる工夫が必要だ。
- ・設問 10「学校行事」は，生徒保護者の「楽しく」に対して教員は「積極的に」となっており，設問の表現が評価の乖離の原因ではないか。
- ・設問 7「基本的な生活習慣」で回答数のトップが「そう思う」になっているのは非常に良い傾向だ。

(4) 授業アンケートについて

- ・教員と生徒の関係が授業評価に大きく影響する。実際の授業力を図る指標となっているのか。
- ・授業アンケートの主旨が生徒に正しく伝わっているのか，そこが大切である。
- ・授業力強化のための研修を導入してはどうか。
- ・アンケートが授業改善にどう生かされるのか，先生方の意識の持ち方が大事である。

(5) その他

- ・高大連携はメリットが多い。大学の内容を中学生にも示してゆけば，今後アピールポイントになる。
- ・宗教的情操教育は東大谷の一番の特長であるからしっかり継続してほしい。
- ・中学校の生徒保護者からは「落ち着いている・礼儀正しい・安心」など学校としての評価が安定してきた。ここに進路実績が伴えばなお良くなる。